



地域に必要な公共施設ってなんだろう？

公共施設 の みらい を考える ワークショップ

実施レポート

2025 年 10 月

 町田市

- 目次 -

1. はじめに	3
---------------	---

2. ワークショップの概要	4
---------------------	---

（1）目的	4
（2）対象・参加者数.....	4
（3）会場・日時.....	4
（4）グループワークのテーマ.....	5
（5）グループワークの進め方.....	6

3. ワークショップの開催結果	9
-----------------------	---

（1）各グループワークの実施結果	9
①鶴川市民センター.....	10
②南市民センター.....	14
③小山市民センター	18
④忠生市民センター.....	22
⑤町田市庁舎	26
（2）まとめ	32

4. 参考資料	35
---------------	----

（1）ワークショップ当日資料	35
（2）役割カード一覧	37
（3）キーワードカード一覧	38

1. はじめに

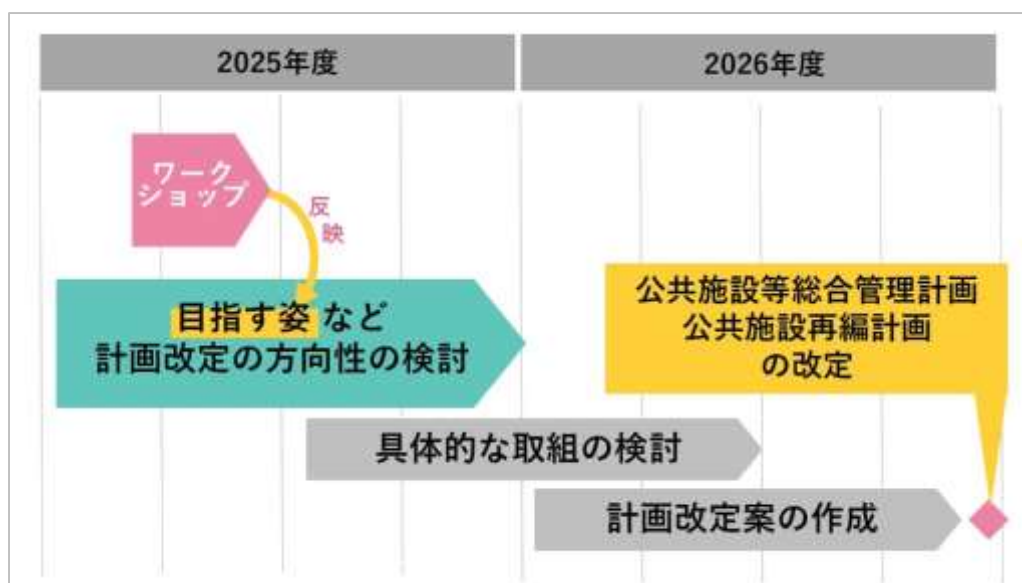
町田市では、高度経済成長期の人口増加を背景に多くの公共施設を整備しました。それから 50 年以上が経過し、当時整備した多くの施設が老朽化により更新の時期を迎えています。

そのような中で、将来の町田を担う世代に負担を先送りすることなく、施設を適正に管理するとともに、新たな価値の付加や更なるサービスの向上を図り、都市の魅力を高めていくため、将来を見据えて、これからの時代にあった公共施設・公共空間のより良いかたちづくりに取り組んでいく必要があります。

このため、町田市では、2016 年 3 月に公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な方針を示す「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)」を、2018 年 6 月に公共施設再編等に関する具体的な取組を示す「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」を策定しました。

これらの計画策定後、昨今の急激な物価高騰といった経済・社会情勢等の変化や、地域コミュニティのあり方の変化、コロナ禍を契機としたライフスタイルの変化、テクノロジーの目覚ましい進化など、大きな環境変化等が生じています。こうした環境変化等を踏まえ、市では、計画の改定に向けた検討を進めています。

そこで、計画改定に向けた市民ニーズの把握等のため、本ワークショップを実施することといたしました。



▲ 計画改定の全体工程



2. ワークショップの概要

(1) 目的

本ワークショップは、公共施設の“みらい”の姿についての対話を通して、多様な視点から、これからの地域に必要な公共施設の役割や、みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のあり方等に関する意見やアイデア等を出し合い共有し、「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に掲げる公共施設の「目指す姿」の検討に反映することを目的として実施しました。

(2) 対象・参加者数

対 象	町田市在住・在学・在勤の方、町田市の公共施設利用者、町田市内団体 (各回 15 名程度)
参加者数	53 名※

※ 鶴川市民センター12 名、南市民センター9 名、小山市民センター8 名、忠生市民センター8 名、町田市庁舎 16 名。

(3) 会場・日時

会場	日時
鶴川市民センター	2025 年 7 月 5 日 (土) 9:30~11:30
南市民センター	2025 年 7 月 5 日 (土) 14:00~16:00
小山市民センター	2025 年 7 月 12 日 (土) 9:30~11:30
忠生市民センター	2025 年 7 月 12 日 (土) 14:00~16:00
町田市庁舎	2025 年 7 月 13 日 (日) 9:30~11:30

(4) グループワークのテーマ

テーマは各回共通で、「これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割」と、「みんなが集まる地域の拠点（公共施設）」の 2 つのテーマについて、グループワークを行いました。

テーマ 1 これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

「自分ゴト」として、自身や身近な家族、お子さん、お孫さんなどを思いながら、地域の中でどのように暮らしていきたいか、何がやりたいかなどを想像し、これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、話し合いました。

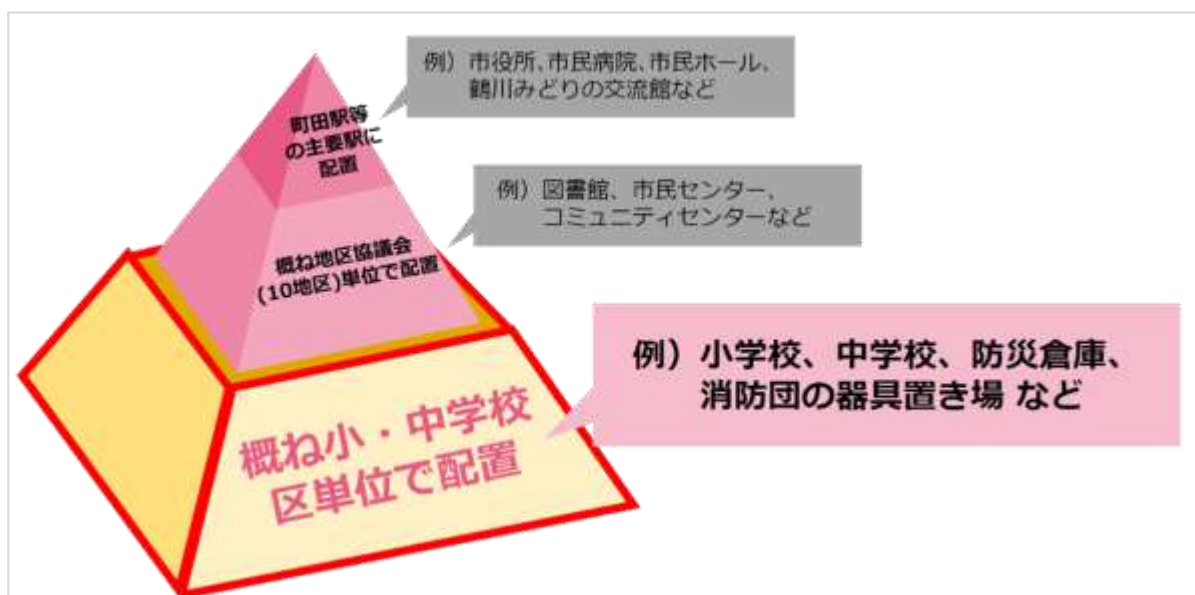
テーマ 2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！

テーマ 1 で話し合った役割を担う地域の拠点（公共施設）について、どんな場所だったら良いか、どんな場所だったら自分が行きたいと思うか、どんな場所ならみんなが集まるかについて、話し合いました。

■グループワークで話し合う“これから”と“地域”の範囲

グループワークで話し合う“これから”の範囲は、これからの地域の拠点（公共施設）のあり方を、参加者にとって身近な問題として考えていただくため、今から 10～15 年後の 2040 年頃を想定しました。

また、グループワークで話し合う“地域”の範囲は、参加者にとって身近な地域の拠点（公共施設）のあり方を考えていただくため、概ね小・中学校区単位としました。



▲ グループワークで話し合う“地域”の範囲

（５）グループワークの進め方

4～6 人の小人数グループに分かれて、テーマ１、テーマ２について、それぞれカードを用いて話し合いました。グループワークの結果は、各テーマの話し合いの中で出たカードを、模造紙に整理しながら貼り付け、まとめました。

テーマ１ これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

身近な地域に関連する様々な役割を掲載した「役割カード」（全 19 種類。オリジナルの役割の追加も可。P.37 参照。）を用いて、これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要だと思う役割について、話し合いました。

初めに、各自「役割カード」を 3 枚まで選び、選んだカードとその理由をグループで共有しました。

その後、気づいたこと、地域の拠点のイメージなどについて意見交換し、グループとして特に必要だと思う役割を 5 枚まで厳選しました。



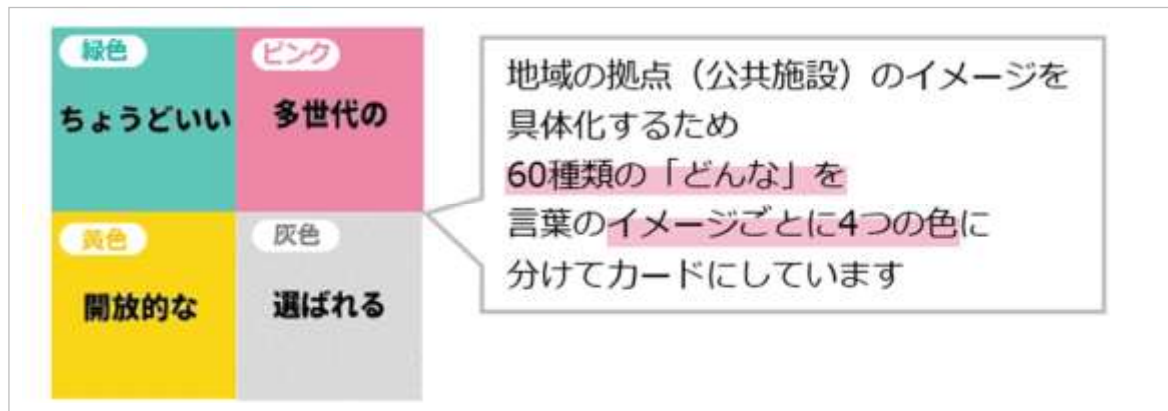
▲ 「役割カード」の記載内容

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！

地域の拠点（公共施設）のイメージを具体化するため、「どんな」を掲載した「キーワードカード」（全 60 種類。P.38 参照。）を用いて、テーマ1 で選んだ役割を担う地域の拠点（公共施設）が、どんな場所だったら良いか、どんな場所だったら行きたいと思うか、話し合いました。

初めに、各自「キーワードカード」を4～6枚（グループワークの参加者数により異なります。）程度選び、選んだカードにシールを貼ってグループ内で共有しました。

その後、選んだ「キーワードカード」と「役割カード」の関連性を整理しながら、地域の拠点（公共施設）のイメージについて話し合いました。



▲ 「キーワードカード」の例



▲ 各自選んだ「キーワードカード」にシールを貼る様子

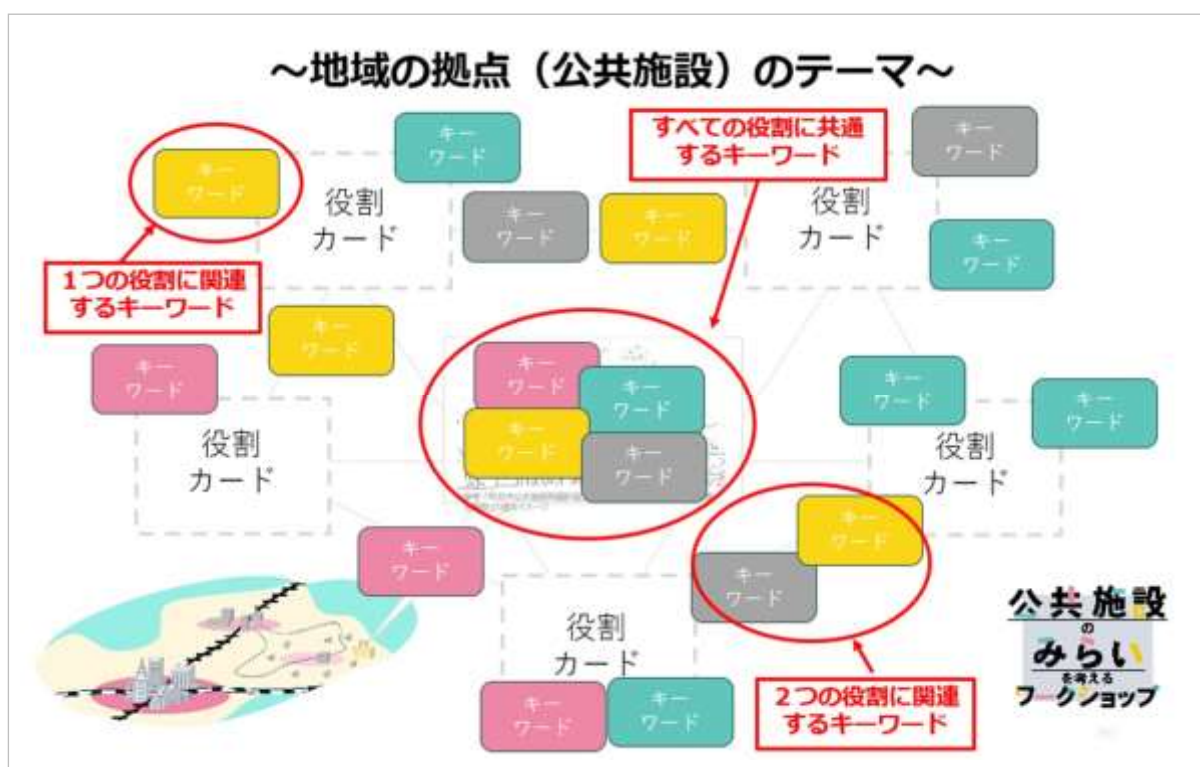
■ グループワークのまとめ

グループワークで話し合った結果を、グループごとに 1 枚の模造紙にまとめました。

初めに、テーマ 1 で選んだ 5 枚までの「役割カード」を、下図の配置のとおり模造紙に貼りました。なお、グループとして選んだ 5 枚までの「役割カード」以外で、話し合いの中で必要との意見が出た「役割カード」は、模造紙の下部に貼りました。

次に、テーマ 2 で選んだ「キーワードカード」について、全ての役割に共通して関連するキーワードは模造紙の中心に、個別の役割に関連の深いキーワードはその「役割カード」の近くに配置し、「役割カード」との関連性を整理しながら模造紙に貼りました。

最後に、グループで考えた地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表すコンセプト等を、模造紙の上部にテーマとして書き込みました。



▲ グループワークでまとめる模造紙のイメージ図

3. ワークショップの開催結果

(1) 各グループワークの実施結果

5 会場、計 11 グループにて実施したグループワークの結果をご紹介します。

会場	グループ	地域の拠点（公共施設）のコンセプト等	参加者数
鶴川市民センター	A	COCORUN - ココるん -	6 名
	B	ちょうどいい居場所	6 名
南市民センター	A	地域活動コミュニティセンター	4 名
	B	レインボー	5 名
小山市民センター	A	誰ひとり取り残さない 持続可能な 次世代へつなぐ施設	4 名
	B	自然でインクルーシブな空間	4 名
忠生市民センター	A	いつでも誰でもオシャレな出会いができる場	4 名
	B	みんなのセカンドハウス	4 名
町田市庁舎	A	“フラット”“ぷらっと”Enjoy リビング!!	5 名
	B	みんなの拠点	5 名
	C	誰でもふらっと立ち寄れる 安心安全な地域	6 名

① 鶴川市民センター

グループ
A

コンセプト等

COCORUN - ココるん -



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「文化芸術」、「居場所」、「生涯学習」、「地域活動」、「地域防災」の5つが選ばれました。

話し合いの中では、「子どもから高齢者まで誰もが文化芸術に触れ表現活動ができる場や、日常的に身近に感じられ慣れ親しみ誰もが安心して過ごせる場、主体的・探究的な学びを社会人になっても続けられるような環境が必要である。」といった意見や、「多世代がつながり地域の人たちが主体的に関わることでできる地域の活性化や交流の拠点などが必要。」といった意見がありました。また、「普段から利用し慣れている場所を、いざという時の避難所や安心できる場所として活用するべき」との意見もありました。

このほか、「子ども子育て」、「交通」、「スポーツ」、「健康増進」、「教育」、「地域福祉」、「治安・防犯」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 選んだキーワードカードを並べる様子

テーマ1 で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「“安心・安全な”施設であることが、すべての役割の前提であり、“誰でも”安心して利用できることが重要。」との意見や、「“誰でも”“使いやすい”拠点となるために、“身近で”“心地よい”“便利な”施設であってほしい。」、「“次世代へつなぐ”ため、利用する人のニーズの変化に合わせて柔軟に“変化できる”施設だと良いと思う。」、「利用者の“経済的”な負担が少なくなるよう使用料が安価だと良い。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、心地よく、明るく、誰もが安心して過ごせる場所として、「COCORUN（ココるん）」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「交通」、「健康増進」、「治安・防犯」、「文化芸術」、「農業（オリジナルの役割）」が選ばれました。

話し合いの中では、「買い物や通院といった生活の足を支える移動手段や、子ども・高齢者などが運動し健康を保つことのできる機能、犯罪などから地域の安全を守る機能のほか、災害時の情報提供や避難所の機能も重要である。」といった意見や、「文化芸術などの活動を通じて、人生を豊かにし多様な人たちが自分らしく活躍し、多世代交流や食育の場としての役割も重要である。」とい

このほか、「窓口」、「地域防災」、「飲食」、「教育」、「スポーツ」、「娯楽」、「地域活動」、「居場所」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「“多目的な”施設で利用にあたっての制約が少なく、“開放的な”空間で利用者がふらっと立ち寄ることができ、様々な活動に参加できる“便利な”施設であってほしい。」との意見や、「特定の世代や属性に限定しない”誰でも”利用できる開かれた場として、“インクルーシブ（包括的）な”“フラットな”施設であってほしい。」「利用者が気持ちよく利用できる”きれいな”空間や、利用者の声や変化に合わせて調整できる”フレキシブル（柔軟）な”“ちょうどいい”施設が良い。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、利用者にとって心地よく自由で、地域の人たちが自然と集まり、つながることのできる「ちょうどいい居場所」としました。



▲ 発表の様子



▲ 鶴川市民センター参加者の集合写真

② 南市民センター

グループ
A

コンセプト等

地域活動コミュニティセンター



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「地域活動」、「地域防災」、「生涯学習」、「治安・防犯」、「地域福祉」が選ばれました。

話し合いの中では、「地域のつながりを深めるための地域活動の拠点として、イベントや会議ができる場所が必要。」との意見や、「普段から利用される施設が、いざという時に避難できる場となるべき。」、「幅広い世代が学び続けられる環境が重要。」、「監視カメラや街灯といった安全に過ごせる環境づくりも重要。」、「高齢者や障がいのある人、子育て世代など、支援が必要な人たちが利用しやすい施設であることも求められる。」といった意見がありました。

このほか、「教育」、「窓口」、「医療」、「居場所」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ キーワードカードを配置する様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「子どもから高齢者まで“多世代の”利用者が利用することができ、“身近な”“便利な”施設が必要。」、「利用者が“楽しい”と感じられる雰囲気づくりや、“親しみやすい”デザインによる施設づくりも重要。」との意見や、「普段は気軽に使え、利用者のライフスタイルやニーズに合わせて柔軟に対応でき、災害時には地域防災の拠点としても活用する“フレキシブル（柔軟）な”施設、緊急時に利用できる“安心・安全な”施設であってほしい。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、地域活動の場であり、学びの場でもあり、防災機能を兼ね備えた、「**地域活動コミュニティセンター**」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子





テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「地域活動」、「居場所」、「生涯学習」、「子ども子育て」、「スポーツ」が選ばれました。

話し合いの中では、「地域の人たちが集い、交流し活動できる拠点としての役割が重要。」「青年層も含めた幅広い世代がふらっと立ち寄れ、安心して過ごせる居場所があると良いと思う。」「子育て世代や子どもが安心して利用できる環境づくりが求められる。」「ITを含めた様々な分野について、世代を超えた学びや交流の機会があることも重要。」「健康増進や世代間交流の観点から、いくつになっても体を動かせる場があることも重要。」といった意見がありました。

このほか、「治安・防犯」、「医療」、「健康増進」、「文化芸術」、「窓口」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1 で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「年齢、障がいの有無、国籍、性別などに関わらず、“誰でも”気軽に立ち寄れて利用できる“インクルーシブ（包括的）な”施設が必要であり、“使いやすい”、“安心・安全な”環境であることも必要。」という意見や、「地域の人たちが行きたくなるような“楽しい”“親しみやすい”施設が良い。」「自然エネルギーも活用した“環境にやさしい”“持続可能な”施設で、利用者の“経済的な”負担も考え、利用料金が安価で質も確保されていると良い。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、地域における多様性、つながり、明るさ、親しみやすさをイメージして、「レインボー」としました。



▲ 発表の様子



▲ 南市民センター参加者集合写真

③ 小山市民センター

グループ
A

コンセプト等

誰ひとり取り残さない 持続可能な次世代へつなぐ施設



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「交通」、「生涯学習」、「子ども子育て」、「地域活動」、「地域防災」が選ばれました。

話し合いの中では、「公共交通やライドシェアの仕組みを含めた交通の確保が必要。」との意見や、「自主的な活動やサークルが生まれる、学びや文化を通じた交流の拠点があると良いと思う。」、「子育て世代が安心して集える場や、顔が見える関係づくりを通じて、孤立しがちな人も含めて誰ひとり取り残さず、地域活動やつながりを生み出す場が必要。」、「地域防災の拠点としての役割も不可欠。」といった意見がありました。

このほか、「教育」、「スポーツ」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ際の議論の様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「誰ひとり取り残さない」必要があり、年齢や国籍、障がいの有無、経済状況などに関わらず全ての“多様な”人たちが安心して利用できる“インクルーシブ（包括的）な”施設を目指してほしい。」「誰でも”使える”ために、“フラットな”バリアフリーにも配慮した施設であるべき。」「今だけでなく将来の地域社会の姿も見据えた“持続可能な”“次世代へつなぐ”施設づくりのため、効率的な維持管理など“経済的な”施設運営

も求められる。」「利用者同士の“つながり”を重視し、行政と住民が一体となり地域が“主体的な”運営・活動ができる“開放的な”場づくりも重要。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、地域の多様な人たちが交流し、学び、支え合う「誰ひとり取り残さない 持続可能な次世代へつなぐ施設」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「居場所」、「地域防災」、「飲食」、「地域活動」、「スポーツ」が選ばれました。

話し合いの中では、「子どもや高齢者、孤立しがちな人も含めて、誰もが気軽にふらっと立ち寄れる場所があると良い。」との意見や、「防災や地域活動といった地域コミュニティの拠点としての役割を通じて、世代や属性を超えてつながりを生み出す場が必要。」、「自然と人が集まりやすくなり、地域のつながりが生まれるよう、カフェのような自由に飲食できるスペースや、部活動の地域移行や放課後の子どもの居場所としてスポーツができる場所などがあると、多世代が一緒に活動できることにつながるのではないかな。」といった意見がありました。

このほか、「医療」、「教育」、「娯楽」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ際の議論の様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「年齢や障がいの有無、国籍といった属性を問わず”多世代の””誰でも”利用することができる、”インクルーシブ（包括的）な”空間が必要。」といった意見や、「日常の安心感だけでなく、災害時の避難施設としても”安心・安全な”施設であってほしい。」「日常的に利用ができるよう、徒歩圏内でアクセスできる”便利な”施設だと良いと思う。」「”おしゃれな””きれいな”、そして”楽しい”といったような、公共施設でも行きたくなる”心地よい”空間があると良い。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、自然体で誰でも集まることのできる、環境にも配慮した「自然でインクルーシブな空間」としました。



▲ 発表の様子



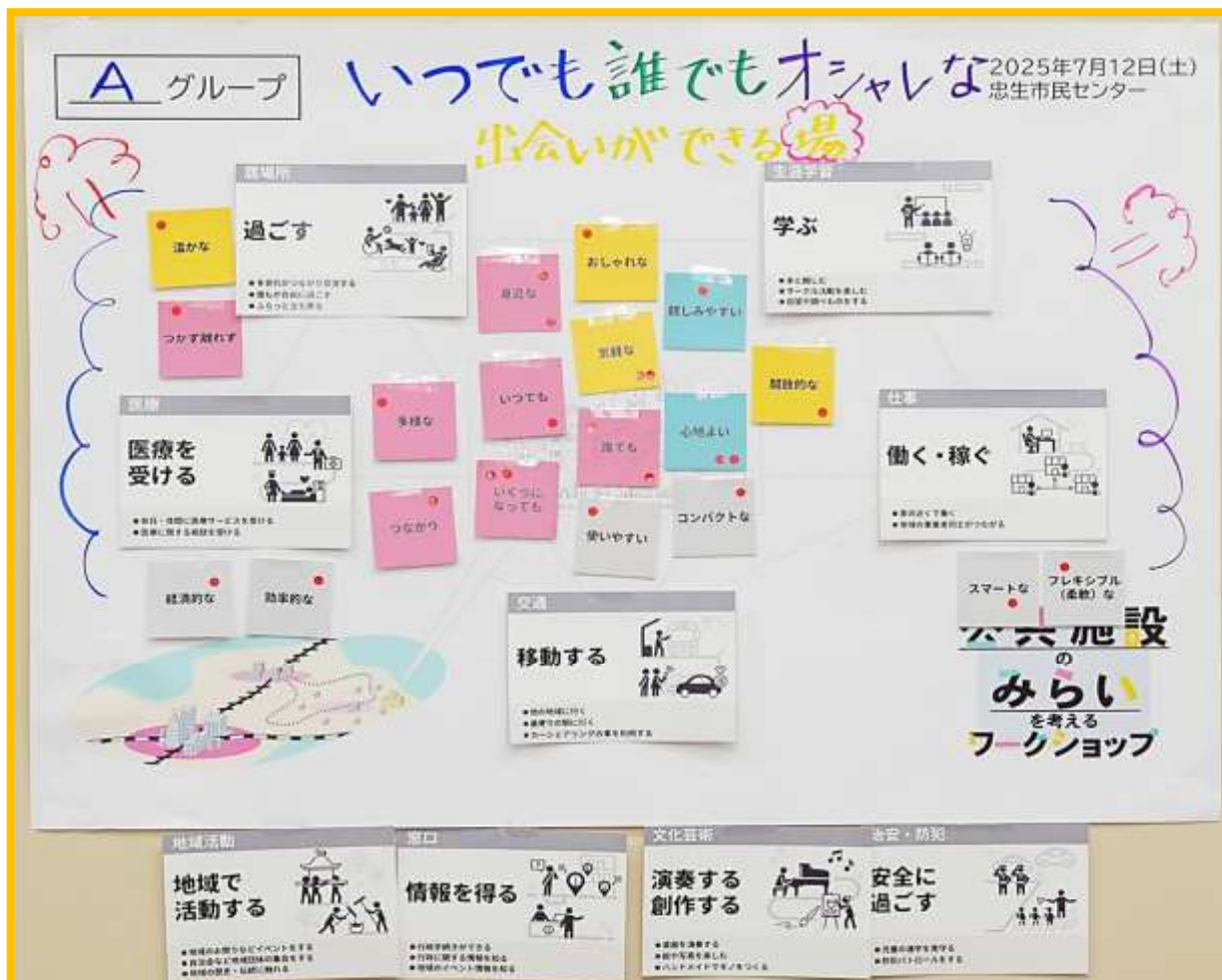
▲ 小山市民センター参加者集合写真

④ 忠生市民センター

グループ
A

コンセプト等

いつでも誰でもオシャレな出会いができる場



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「居場所」、「生涯学習」、「医療」、「仕事」、「交通」が選ばれました。

話し合いの中では、「誰もが安心して過ごせる居場所、読書や様々なサークル活動など、いつになっても学ぶことのできる場所が重要。」との意見や、「地域で暮らす拠点として、いつでも医療に関するサービスや相談を受けられる機能や、リモートワークなど自分の生活に合わせて働くことのできる機能があると良いと思う。」、「地域の拠点へのアクセスも含め、地域の移動が円滑になるよう、移動手段の確保も必要。」といった意見がありました。

このほか、「地域活動」、「窓口」、「文化芸術」、「治安・防犯」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ グループで役割カードを選ぶ際の議論の様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ キーワードカードの配置を検討する様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点(公共施設)のイメージについて、「“身近な”地域の拠点をつくるため、“いくつになっても”“気軽に”に“誰でも”“いつでも”利用ができることが必要。」との意見や、「地域の“つながり”が生まれる施設が必要で、“親しみやすい”“開放的な”、そして“心地よい”施設づくりが求められる。」「誰もが安心して過ごせる“温かな”環境と、“つかず離れず”過ごせる環境が共存している居場所がある施設が求められる。」「“コワーキングスペースのような、仕事ができる・探せる“スマートな”“フレキシブル(柔軟) な”環境でそれぞれのライフスタイルにあった仕事ができる施設であってほしい。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、幅広い世代が気軽に利用しやすく、そして、自分らしく活動ができる地域の拠点として、「いつでも誰でもオシャレな出会いができる場」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子





テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「文化芸術」、「スポーツ」、「地域活動」、「健康増進」、「居場所」が選ばれました。

話し合いの中では、「主体的に文化芸術の活動に取り組み、地域の魅力や誇りにつながるような場があると良いと思う。」といった意見や、「子どもから高齢者まで、誰もが気軽に体を動かせる場があれば、孤立や生活習慣病の予防など心身の健康維持のほか、多世代交流にもつながるのではないかな。」、「地域のイベントなどで住民同士が顔を合わせたり、地域の課題解決や情報共有をしたりできる拠点だと良い。」、「誰もが気軽に立ち寄れ、自然なつながりが生まれる“第二の家”のような存在になると良いと思う。」といった意見がありました。

このほか、「地域福祉」、「教育」、「飲食」、「生涯学習」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ 役割カードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「社会的な孤立や排除を防ぐため、子どもから高齢者まで“多世代の”“誰でも”利用できる、世代を越えた交流ができる場が必要。」との意見や、「地域の人同士が自然につながり“あの人最近見かけないね”と気付けるような、ゆるやかな見守りができる、“つながり”が生まれる拠点があると良い。」、「施設に行くこと自体を楽しめるよう、参加者が主体的に活動できる”いきいきとした”拠点であってほしい。」、「利用する際の予約や手続きが不要で、ふらっと立ち寄ることのできる”身近な”“気軽な”施設だと良い。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、誰でも、いつでも、いくつになっても気軽に立ち寄れる、「**みんなのセカンドハウス**」としました。



▲ 発表の様子



▲ 忠生市民センター参加者の集合写真

⑤ 町田市庁舎

グループ
A

コンセプト等

“フラット” “ぷらっと” Enjoy リビング!!



テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「地域福祉」、「地域防災」、「子ども子育て」、「居場所」、「娯楽」が選ばれました。

話し合いの中では、「小さな子どもなど、支援を必要とする人たちが、誰でも気軽に支援を受けることのできる機能や、子どもから高齢者まで幅広い世代が普段から安心して過ごせ、つながりをつくることのできる居場所としての機能、いざというときには身を守ることのできる地域防災の機能が重要である。」との意見や、「普段の居場所として、様々な遊びやゲームを通じた、多世代交流ができる機能があると良いと思う。」といった意見がありました。

このほか、「教育」、「生涯学習」、「生活」、「スポーツ」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ 役割カードを選ぶ際の議論の様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ カードの配置を検討している様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「誰でも”安心・安全な”利用ができることを基本とし、様々な目的に”フレキシブル（柔軟）な”対応ができる”心地よい”施設が必要。」との意見や、「地域の居場所として”気持ちのよい””静かな”空間があり、普段から”多世代の”、”顔が見える””フラットな””つながり”があれば、災害時などいざというときの備えに繋げることができる。」、「”気軽に”福祉サービスで子どもなどの支援ができ”次世代へつなぐ”ことができる、幅広い世代が様々な遊びなどを通じて”楽しい”と感じる施設であってほしい。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、誰もが日常的に気軽に利用でき、地域での暮らしを楽しめるよう「”フラット” ”ぷらっと”Enjoy リビング!!」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子





テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「地域防災」、「窓口」、「医療」、「生涯学習」、「娯楽」が選ばれました。

話し合いの中では、「近年の大雨などの災害時に、高齢者や障がいのある人も含め、誰もが安全に避難できる拠点、行政や地域に関する情報を誰もが分かりやすく得られるような掲示板など、高齢者や障がいのある人にも配慮した仕組みなどが必要。」といった意見や、「地域に身近な医療や健康相談を受けることができる健康チェックの場、図書・学習スペースなど幅広い世代が学べる場、地域住民が楽しめる活動やイベントができるような多目的な空間の整備も望ましい。」といった意見がありました。

このほか、「居場所」、「スポーツ」、「子ども子育て」、「地域活動」、「飲食」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ 各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲ カードの配置を検討する様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「アクセスしやすい」「身近な」「便利な」地域の拠点を、普段も災害時も「安心・安全な」利用ができる施設であってほしい。」との意見や、「子どもから高齢者、障がいのある人も含めた“多世代の”“誰でも”利用でき、“誰ひとり取り残さない”施設が必要。」、「“気持ちのよい”“開放的”だけでなく、医療や防災など、拠点の機能を発揮する際には利用者に“優しい”空間である必要がある。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、いつもは楽しく、いざという時は頼れる、地域の“顔”となる存在という思いを込めて「**みんなの拠点**」としました。



▲ 発表の様子



▲ 会場の様子





テーマ1

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「居場所」、「地域防災」、「地域活動」、「地域福祉」、「交通」が選ばれました。

話し合いの中では、「子どもから高齢者まで誰もが利用できる身近な居場所があると、孤立を防ぐ役割も期待できる。」といった意見や、「災害時の避難施設として、特に高齢者など移動が困難な人が利用しやすい地域防災の場、地域住民が主体的に参加できる多世代の地域活動の場、高齢者や障がいのある人を含む誰でも利用できる福祉サービスが提供され、切れ目のない支援ができる場、こうしたサービスにアクセスしやすいよう、誰ひとり取り残さない交通サービスが求められる。」という意見がありました。

このほか、「文化芸術」、「健康増進」、「医療」、「子ども子育て」といった役割も、議論の中で話題に上がりました。



▲ 役割カードについて議論する様子

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！



▲各自でキーワードカードを選ぶ様子

テーマ1で選んだ5つの役割を担う地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「防災機能の充実や利用者が安心を感じられる“安心・安全な”拠点ということだけでなく、地域のニーズに応じて“フレキシブル（柔軟）な”利用ができる“持続可能な”施設が、これからの時代には求められる。」という意見や、「障がいの有無や年齢などに関係なく“誰でも”利用でき、“多世代の”交流ができる“インクルーシブ（包括的）な”施設により、地域のつながりが生まれ支え合える拠点であってほしい。」といった意見がありました。

■ 地域の拠点（公共施設）のコンセプト等

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージを一言で表し、地域の拠点が、地域に暮らす様々な人たちの安心・安全につながるよう、「誰でもふらっと立ち寄れる 安心安全な地域」としました。



▲ 発表の様子



▲ 町田市庁舎参加者の集合写真

(2) まとめ

全 11 グループでのグループワークの結果から、テーマ 1 とテーマ 2 それぞれの特徴・傾向や、本ワークショップを通じて見えてきた、これからの地域の拠点（公共施設）に求められるあり方についてまとめました。

テーマ 1 これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割について、「地域活動」（7 グループ）、「地域防災」（7 グループ）、「居場所」（7 グループ）が多く選ばれました。

参加者からは、「孤立しがちな人も含めて誰ひとり取り残さず、“地域活動”やつながりを生み出す場が必要。」、「災害時の避難施設として、特に高齢者など移動が困難な人が利用しやすい“地域防災”の場、地域住民が主体的に参加できる多世代の“地域活動”の場が求められる。」、「青年層も含めた幅広い世代がふらっと立ち寄れ、安心して過ごせる“居場所”があると良いと思う。」といった意見が聞かれました。

このことから、地域とのつながりができる場や、安心して過ごせる居場所が必要なほか、災害や非常時にも備えられるような役割が、公共施設に求められていることがうかがえます。

また、鶴川市民センター、小山市民センター、忠生市民センターを「北部」、南市民センター、市庁舎を「南部」と、会場別にエリア分けをして、多く選ばれた役割を見ると、北部では「文化芸術」（3 グループ）、「交通」（3 グループ）が、南部では「地域福祉」（3 グループ）が比較的多く選ばれる傾向がありました。これらの役割に関して、参加者からは、「“文化芸術”などの活動を通じて、人生を豊かにし多様な人たちが自分らしく活躍できる場があると良い。」、「“交通”の便が不便に感じるので地域の拠点に移動手段があれば過ごしやすくなる。」、「高齢者や障がいのある人を含む誰でも利用できる“地域福祉”のサービスが提供され、切れ目のない支援ができる場が求められている。」との声がありました。

その他の役割について、「“窓口”の機能は、情報格差を防ぎ、行政や地域に関する情報を誰もが分かりやすく得るために必要。」、「リモートワークなど、自分の生活に合わせて“仕事”のできる機能があると良いと思う。」との声が聞かれました。

役割カード	選んだグループ数
地域活動	7
地域防災	7
居場所	7
生涯学習	6
交通	4
地域福祉	3
子ども子育て	3
スポーツ	3
文化芸術	3
娯楽	2

▲ 役割カードの集計結果

役割カード	選んだグループ数
治安・防犯	2
医療	2
健康増進	2
窓口	1
仕事	1
飲食	1
農業※	1
生活	0
環境	0
教育	0

※ 鶴川市民センターのグループ B のグループワークにおけるオリジナルの役割

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）のイメージについて、「誰でも」（11グループ）、「安心・安全な」（10グループ）、「いつでも」（8グループ）、「多世代の」（8グループ）、「身近な」（8グループ）、「開放的な」（8グループ）といったキーワードが多く選ばれました。

参加者からは、「特定の世代や属性に限定しない”誰でも”利用できる開かれた場であってほしい。」「日常の安心感だけでなく、災害時の避難施設としても、“安心・安全な”施設であることが前提になると思う。」「”身近な”地域の拠点をつくるため、“誰でも””いつでも”利用ができることが必要。」「社会的な孤立や排除を防ぐため、子どもから高齢者まで”多世代の””誰でも”利用できる、世代を越えた交流ができる場が必要。」「“開放的な”空間で利用者がふらっと立ち寄ることができる場があると良い。」との声が聞かれました。

このことから、敷居が低く、いつでも立ち寄りやすい施設で、世代に関係なく誰にでも開かれた空間があり、安心・安全な公共施設が求められていることがうかがえます。

キーワードカード	選んだグループ数
誰でも	11
安心・安全な	10
いつでも	8
多世代の	8
身近な	8
開放的な	8
インクルーシブ(包括的)な	7
楽しい	7
気軽な	7
つながり	6
心地よい	6
次世代へつなぐ	6
持続可能な	6
フレキシブル(柔軟)な	6
経済的な	5
便利な	5
いくつになっても	4
多様な	4
環境にやさしい	4
親しみやすい	4
フラットな	4
気持ちのよい	4
いきいきとした	4
きれいな	4
使いやすい	4
つかず離れず	3
誰ひとり取り残さない	3
ちょうどいい	3
公平な	3
スマートな	3

キーワードカード	選んだグループ数
変化できる	3
切れ目のない	2
顔が見える	2
多目的な	2
静かな	2
健やかな	2
ライフスタイルに合わせた	2
おしゃれな	2
にぎやかな	2
温かな	2
穏やかな	2
自分らしい	1
主体的な	1
落ち着いた	1
明るい	1
優しい	1
効率的な	1
コンパクトな	1
シンボル	1
スピーディーな	1
誇れる	1
選ばれる	1
慣れ親しんだ	0
のびのびとした	0
ゆとりのある	0
新しい	0
豊かな	0
未来の	0
伝統的な	0
正確な	0

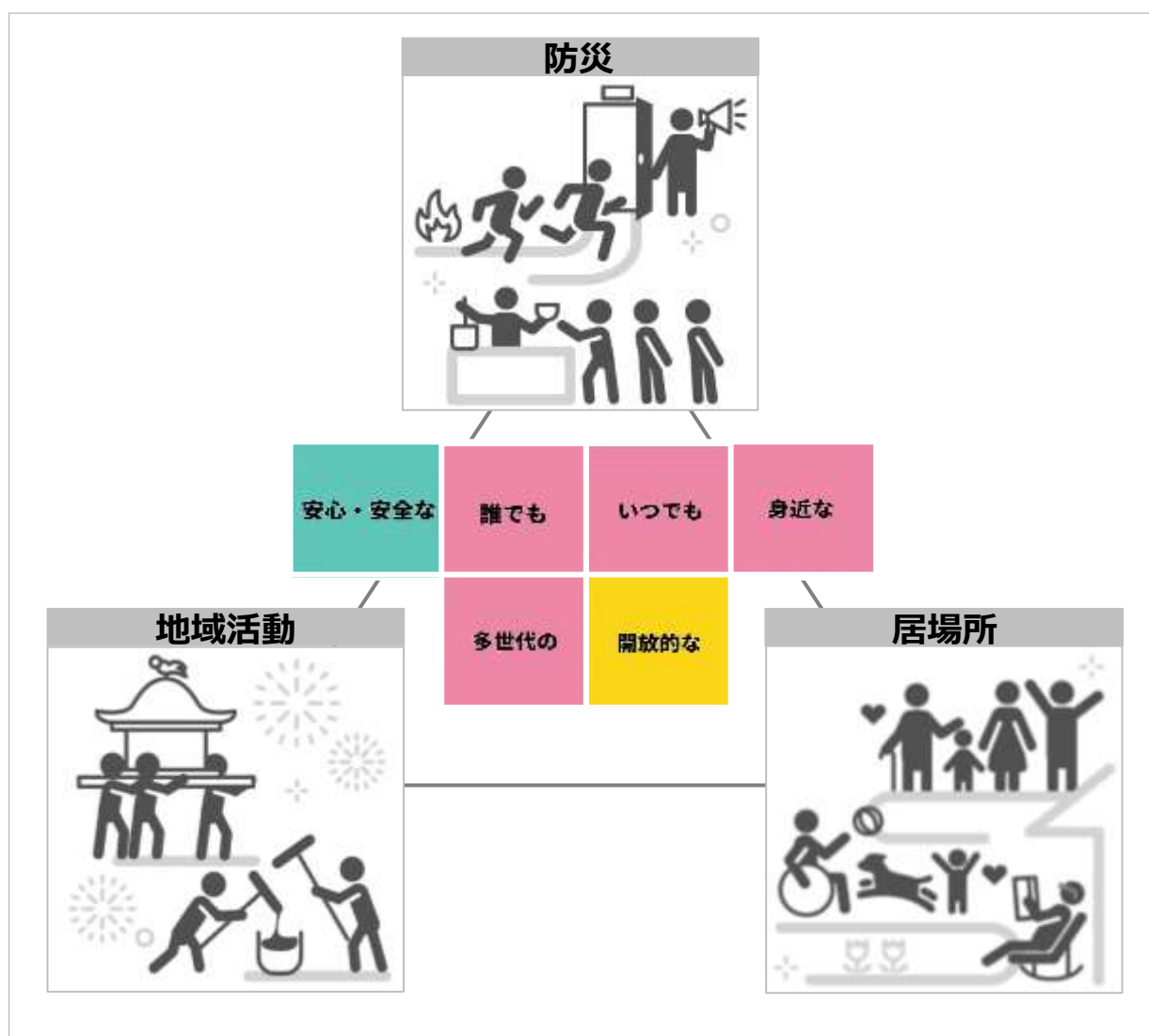
▲ キーワードカードの集計結果

■ これからの地域の拠点（公共施設）に求められるあり方

ワークショップの参加者のみなさまの声からは、これからの地域の拠点（公共施設）のあり方として、「誰でも安心していつでも立ち寄ることができ、地域の人とのつながりが生まれ、いざという時に身を守れる身近な地域の居場所」が求められていることがうかがえます。

利用目的にあわせた公共施設を整備していた時代から、より多目的に、幅広い世代が誰でも気軽に利用できる、開放的なスペースを有する公共施設が望まれる時代へと、ニーズが変化していることが考えられます。

そして、こうした居場所を媒介として地域の様々な人たちがつながることで、地域活動を通じた地域コミュニティの活性化や、いざという時に備えた地域防災の強化を図ることが求められています。



▲ これからの地域の拠点（公共施設）に求められるあり方のイメージ

4. 参考資料

(1) ワークショップ当日資料（抜粋）

<h2>2 ワークショップの目的</h2> <p>目的</p> <div>2016年3月策定 「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」</div> <div>2018年6月策定 「みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画」</div> <p>改定</p> <p>公共施設の「目指す姿」を具体化して更新するために、市民のみなさまからご意見を伺うことを目的とする。</p> <p>1</p>	<h2>2 ワークショップの目的</h2> <p>町田市公共施設等総合管理計画と 町田市公共施設再編計画</p> <div>「町田市公共施設等 総合管理計画（基本計画）」 財政状況が厳しい中でも、サービスを維持・向上させていく ため、公共施設や都市インフラ施設の更新・維持や管理に関 する基本的な考え方や方針を示した計画。</div> <div>「みんなで描こうより良いかたち 町田市公共施設再編計画」 公共施設の再編に向けた取組を施設の種類のごとに示した計画。</div> <p>町田市の公共施設の 方向性を決める計画</p> <p>2</p>	<h2>2 ワークショップの目的</h2> <p>計画見直しの背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現行計画策定後の主な環境変化や国・市の動向など ○公共施設などを取り巻く状況 ○市民ニーズや現行計画の取組状況など <p>みらいの公共施設のあり方を考える</p> <p>3</p>
<h2>2 ワークショップの目的</h2> <p>対象の“公共施設”</p> <p>例）市役所、市民病院、市民ホール、鶴川みどりの交流館など</p> <p>身近な地域の拠点となる公共施設のあり方をいっしょに考えよう！</p> <p>例）図書館、市民センター、コミュニティセンターなど</p> <p>概ね小・中学校区単位で配置</p> <p>例）小学校、中学校、防災倉庫、消防団の器具置き場 など</p> <p>4</p>	<h2>3 グループワークのテーマ</h2> <p>テーマ</p> <div>テーマ1 これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？</div> <p>「自分ゴト」として、自身や身近な家族、お子さん、お孫さんなどを思いながら、地域の中でどのように暮らしていきたいか、何がやりたいかなどを想像しながら、考えてみよう。</p> <div>テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！</div> <p>どんな場所だったらいいか、どんな場所ならみんなが集まるか、どんな場所だったら自分が行きたいと思うかを考えてみよう。</p> <p>5</p>	<h2>3 グループワークのテーマ</h2> <p>“これから”の範囲</p> <div>テーマ1 これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？</div> <p>今から10～15年後（2040年頃）を想定</p> <p>例えば・・・</p> <p>6</p>

3 グループワークのテーマ

“地域”の範囲

テーマ1 これからの地域の拠点（公共施設）にとって必要な役割ってなんだろう？

概ね小・中学校区単位で配置

テーマ2 みんなが集まる地域の拠点（公共施設）を想像しよう！

7

4 グループワークの進め方

テーマ1 役割カード

役割カード（全19種類）を使って、地域の拠点にとって必要だと思う役割をグループで話し合います。

スポーツ → **タイトル（役割名）**

運動をする → **やりたいこと**

● 地域のスポーツ大会に参加する
● ウォーキングなどの軽い運動をする → **活動の例示**

▲ 役割カードの記載内容

8

4 グループワークの進め方

テーマ1 進め方

地域の拠点（公共施設）にとって必要だと思う役割を、お手元の「役割カード一覧表」から、最大3枚まで選ぶ。【3分】

選んだ役割カードと、そのカードを選んだ理由をグループで共有。【3分/人】

他の参加者の選んだ役割カードやその理由を受けて、気づいたこと、地域の拠点のイメージなどを意見交換。

グループで出された意見をもとに、各グループで最大5枚まで役割カードを選び出す。

9

4 グループワークの進め方

テーマ2 キーワードカード

キーワードカード（全60枚）を使って、みんなが集まる地域の拠点（公共施設）がどんな場所だったら良いか、どんな場所だったら行きたいと思うかを、グループで話し合います。

緑色 ちょうどいい
ピンク 多世代の
黄色 開放的な
灰色 選ばれる

地域の拠点（公共施設）のイメージを具体化するため60種類の「どんな」を言葉のイメージごとに4つの色に分けてカードにしています

10

4 グループワークの進め方

テーマ2 進め方

みんなが集まる地域の拠点（公共施設）がどんな場所だったら良いか、どんな場所だったら行きたいと思うかを、お手元の「キーワードカード一覧表」から4枚程度選ぶ。【3分】

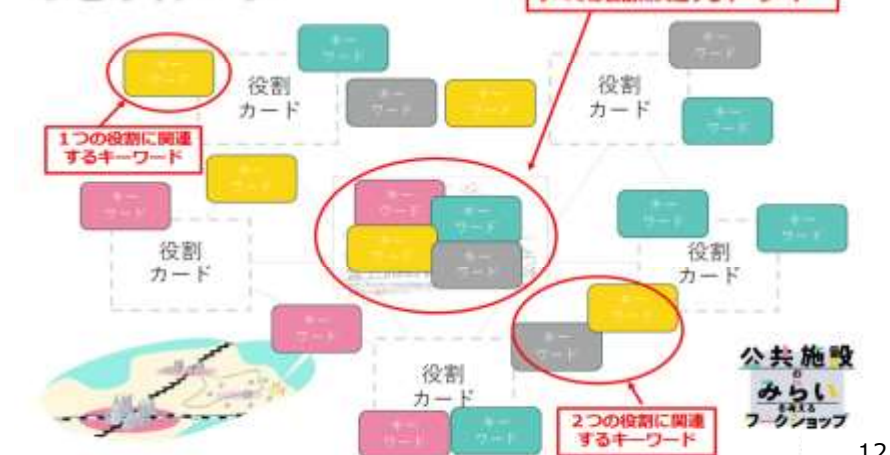
選んだ「キーワードカード」にシールを貼ってグループで共有。

多くの参加者に選ばれたキーワードカードから順番に、テーマ1で選んだ役割カード、キーワードカード同士とも関連させながら整理し、模造紙に貼り付ける。

11

4 グループワークの進め方

まとめイメージ



12

5 参考情報紹介

事例1 地域コミュニティに支えられた学社融合施設（埼玉県志木市）



志木小学校と公民館、図書館の複合施設。複合化で施設機能が高機能化・多機能化したことにより、小学校では学習環境の質が向上。公民館・図書館でも学校と連携したより効果的な活用が図られるなど、相乗効果が生まれている。



13

5 参考情報紹介

事例2 コミュニティ複合施設



はやぶさらば 集 Lab.（鳥取県八頭町）

廃校を活用したカフェやショップ、地域福祉組織等が入居するコミュニティ複合施設。地域コミュニティの場や思い出の場である学校を、廃校後も地域住民が集まるコミュニティスペースとして維持し、新たな地域拠点として整備。廃校以前に引き続き、グラウンドが指定緊急避難場所、体育館が指定避難所としての機能を持つ。



14

8 閉会

今後の予定



15

(2) 役割カード一覧

地域活動 地域で活動する  <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域のお祭りなどイベントをする ■ 自治会など地域団体の集会をする ■ 地域の歴史・伝統に触れる 	地域福祉 支援を受ける  <ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な悩みなどを相談する ■ 必要な支援を受ける 	窓口 情報を得る  <ul style="list-style-type: none"> ■ 行政手続きができる ■ 行政に関する情報を知る ■ 地域のイベント情報を知る 	娯楽 楽しむ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 囲碁、将棋などを楽しむ ■ ゲームをする、動画を見る ■ おもちゃで遊ぶ 	治安・防犯 安全に過ごす  <ul style="list-style-type: none"> ■ 児童の通学を見守る ■ 防犯パトロールをする
子ども子育て 子育てする  <ul style="list-style-type: none"> ■ 保育園に預ける ■ 安全安心な場所で遊ぶ ■ 子育ての相談をする 	地域防災 身を守る  <ul style="list-style-type: none"> ■ 災害が起きたときに避難する ■ 備蓄品などを保管する ■ 消防団が活動する 	スポーツ 運動をする  <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域のスポーツ大会に参加する ■ ウォーキングなどの軽い運動をする 	文化芸術 演奏する 創作する  <ul style="list-style-type: none"> ■ 楽器を演奏する ■ 絵や写真を楽しむ ■ ハンドメイドでモノをつくる 	医療 医療を受ける  <ul style="list-style-type: none"> ■ 休日・夜間に医療サービスを受ける ■ 医療に関する相談を受ける
生涯学習 学ぶ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 本と親しむ ■ サークル活動を楽しむ ■ 学習や調べものをする 	健康増進 健康を保つ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 健康診断や予防接種を受ける ■ 健康について相談する ■ 健康講座などを受ける 	生活 暮らす  <ul style="list-style-type: none"> ■ 日用品などを買う ■ 宅配便やクリーニングなどを利用する 	交通 移動する  <ul style="list-style-type: none"> ■ 他の地域に行く ■ 最寄りの駅に行く ■ カーシェアリングの車を利用する 	環境 美しく保つ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 資源をリサイクルやリユースする ■ 地域の美化活動を行う
居場所 過ごす  <ul style="list-style-type: none"> ■ 多世代がつながり交流する ■ 誰もが自由に過ごす ■ ふらっと立ち寄る 	仕事 働く・稼ぐ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 家の近くで働く ■ 地域の事業者同士がつながる 	教育 育つ  <ul style="list-style-type: none"> ■ 小・中学校に通い教育を受ける ■ 放課後に児童を預ける ■ 放課後活動を楽しむ 	飲食 食べる  <ul style="list-style-type: none"> ■ カフェで一息つく ■ 子ども食堂で団らんを楽しむ ■ ご飯を食べる 	<凡例>  <ul style="list-style-type: none"> ■ タイトル (役割名) ■ やりたいこと ■ 活動の例示

(3) キーワードカード一覧

いくつになっても	切れ目のない	多様な	環境にやさしい	ライフスタイルに合わせた	心地よい	穏やかな	新しい	持続可能な	スマートな
いつでも	多世代の	誰でも	静かな	安心・安全な	落ち着いた	開放的な	豊かな	シンボル	伝統的な
インクルーシブ (包括的) な	つかず離れず	誰ひとり 取り残さない	親しみやすい	気持ちのよい	明るい	気軽な	未来の	スピーディーな	フレキシブル (柔軟) な
つながり	主体的な	健やかな	のびのびとした	いきいきとした	楽しい	優しい	効率的な	誇れる	選ばれる
顔が見える	身近な	ちょうどいい	フラットな	おしゃれな	にぎやかな	経済的な	コンパクトな	使いやすい	変化できる
自分らしい	多目的な	慣れ親しんだ	ゆとりのある	きれいな	温かな	公平な	次世代へつなぐ	正確な	便利な

